

教育目標		強くやさしくたくましい 花里の子の育成 ～自分を愛し、自分に自信がもてる 人間性豊かでたくましい児童の育成をめざして～							
重点目標		①自分を大切に、人を思いやる心とたくましい体の育成 ②聞く・話す・読む・書く力を育て、表現力を高める。 ③生きる力の育成 ④地域に学び、地域に開かれた学校づくり							
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価	
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・家庭学習(自主学習を含む)を定着させる。 ・一人ひとりに確かな力をつけ、表現力を高める。豊かに表現できる思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。	・少人数指導やTTなど多様な授業形態を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 ・朝学習の徹底と内容の充実を図る。 ・CRT調査を行う。 ・子どもの実態に即した課題を出す。 ・3年生から自主学習に取り組ませる。 ・各学年に応じた「家庭学習の手引き」の配布と、自主学習の内容を紹介する等の工夫を行う。 ・家庭学習や生活に関する振り返りのアンケートをPTAと連携して行う。 ・自分の考えを持ち、それを表現する力を育成するため、各学年に合った表現する力を明確にする。 ・どの教科でも、意見交流の場を効果的に取り入れていく。 ・週1回の図書の時間や朝読書などを利用し、読書の時間を充実させ、語彙力や表現力を豊かにする。	・児童アンケートで「授業がわかりやすく、楽しい」と回答した割合が80%以上になる。 ・毎日の宿題を全員が提出する。 ・学年×10分+20分の宿題(自主学習を含む)に取り組めるようにする。 ・ワークシートや振り返りで考えの深まりが見られる。 ・1週間の読書時間、合計70分以上を達成する。(図書・朝読含む)	B	・児童アンケート結果が77.5%と、目標を少し下回った。保護者アンケートでは、「学校の授業を通して、学力がついている」91.2%、「学校は、授業をわかりやすく工夫している」90.8%という回答であった。 今年度も、学団ごとで学力向上プランの見直しを図り、①個別指導の充実②朝学習の徹底③家庭学習の充実を三本柱に、基礎基本の定着や学習規律の改善に取り組んだ。 ・年度初めに全家庭に「家庭学習の手引き」を配布し、教科の指定や具体的な手順を提示することにより家庭学習の習慣づけを図った。また、自主学習の具体例を紹介し、子どもたちの取り組みのヒントとした。 「家庭学習の時間が60分以上」と回答した児童は30%であり、30分未満の児童が34.4%いることは課題である。 ・研究テーマに沿って、思考ツールを用いた意見交流を中心とした授業づくりに学校全体として取り組めたが、豊かに表現できる児童とそうでない児童に差があることが課題である。 ・学校司書による学年に応じた本の紹介や、花里読書まつりの開催などを行ったが、読書時間が70分以上と回答した児童が38.4%、30分未満が23.2%であることが課題である。	・来年度も今年度同様に、少人数指導、TT、教科担任制など多様な授業形態を取り入れ、子どもたちに分かりやすい授業、基礎基本の定着が図られるよう取り組んでいく。 ・他学年や専科の教員と連携し、教師同士がお互いを高め合う機会を増やすことで、授業づくりの工夫をしていく。 ・学力向上の三本柱を軸に、基礎基本の定着、学力の底上げを図っていく。今年度初めて、基礎基本の定着を図るためのCRT調査を行った。毎年CRT調査を行い、個々の学力を詳しく把握していく予定である。 ・来年度も引き続き「家庭学習の手引き」を配布し、家庭への啓発を進め、学習習慣づくりに取り組んでいく。また、「学力向上プラン」をもとに、支援が必要な児童に対しては、個別に具体的な指導をしていく。 ・来年度は、意見交流や自分の考えを上げるなど自分を表現できる場を積極的に取り入れ、より目指す子ども像の実現に向けた研究を進めていく。 ・読書に親しむ児童を増やすために、読書まつりや学校司書による本の紹介など、本に親しむ活動をさらに充実させていく。	・全国学力学習状況調査やCRT調査の実態を共有し、改善を進め、成果をあげていることに、教師全員の意欲が見える。 ・家庭学習の定着は「自ら学ぶ」姿勢が肝要となる。家庭学習の手引きにより、保護者の協力を得ることに加え、学ぶ楽しさを学校・地域・家庭で育てていければと思う。児童の知的好奇心を揺さぶる仕掛け作りをさらに考えてみてほしい。 ・思考ツールを用いた授業展開などは、中学や高等学校、さらには社会に出て活躍する場面での問題解決や意見集約で有効なツールとなる。今後も取り組みで有効なツールとなる。今後も取り組みを続けていきたい。 ・教師が笑顔で児童と接すると、児童達も柔らかな表情で発言や発表を行っている様子が多かった。子ども達の成長を支える教員の役割は大切である。 ・豊かに表現できる児童と、そうでない児童に差がある。聞く心と話す力の育成が必要である。本の読み聞かせが有効であると考えられる。 ・基礎・基本が定着し、豊かな生活経験の上に立って、自分の考えや思いができて、自己表現ができるのだと思う。
		新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・児童の情報活用能力の育成を図る。	・各教科に合わせてiPadやモニター等のICT機器を有効活用する。 ・タブレットの操作などにおいて、情報活用能力を高める。 ・情報モラル教育の年間カリキュラムを組み、各学年月2~3回程度授業を実施する。	・月10時間以上活用することを目標とし、効果的な活用方法の研修や情報交流を行う。 ・児童アンケートで「タブレットやテレビモニターを使った授業はわかりやすい」と回答した割合が90%以上になる。また、教職員アンケートで「ICT機器(タブレット、モニターなど)を活用した教育活動を行っている」と回答した割合が90%以上になる。	A	・全学年、月10時間以上、授業内容や児童の実態に合わせて活用できた。iPadの活用についても、効果的な活用方法の研修会を開き、積極的に活用することができた。学級閉鎖などの場合にも、すぐにオンライン授業や課題配信・提出などを行うこともできた。 ・児童アンケートの結果は89.4%、教職員アンケートの結果は100%であった。	・グループでの話し合いや、ICT機器を活用していくことにより、子どもたちが主体的に授業に取り組むことができるように工夫していく。	・ICT機器を活用しての教育活動は、効果的な結果が出ている。今後も子ども達が主体的に授業に取り組むことができる工夫をしてほしい。
		「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	・自尊感情、自己肯定感を育成する。 ・学級作りを工夫する。(支持的風土作り) ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 ・不登校の予防と解消を図る。	・子どものがんばりを学校と家庭で連携して認めていく。 ・学級の中で自分の意見が安心して言い合えるような雰囲気作り(クラス作り)を進めていく。 ・いじめ等に関する実態把握のためのアンケート調査を実施し実態把握を行い、はやく対応を行う。 ・積極的に家庭へ連絡をとり、連携を図る。	・児童アンケートで「自分にはいいところがある」と言える子を75%以上に増やす。 ・児童アンケートで「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらった」と回答した割合が80%以上になる。 ・児童アンケートで「学校に来るのが楽しい。」と回答した割合が90%以上になる。 ・登校への行き渋りが見られる児童に対して、職員研修や不登校対策委員会を開くなど全職員で取り組み、不登校児童数を減らす。	B	・「自分にはいいところがある」63.6%、「がんばったことをほめてくれる」81.4%で概ね目標を達成している。 ・「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらった」85.4%と目標を達成している。 ・児童アンケート「学校に来るのが楽しい」83.5%、また保護者アンケート「楽しく学校に行っている」の回答は89.4%という結果で、目標は概ね達成している。しかし、学校に来ることが楽しいと言えない児童が16.5%いることや、新型コロナウイルスの影響を受けて休みがちになる児童も増えつつあることは課題である。	・来年度も引き続き、学校行事だけでなく、日頃から児童のがんばりを認め、自尊感情を高めていきたい。子ども達の頑張りや認めるところで、子どもに自信を持たせる。委員会やクラブ活動などを通して、全職員で子ども達の様子を見守っていく。 ・自尊感情や自己肯定感を高めていくために、学校での個々の子ども居場所がある支持的風土のある学級づくりに、学校をあげて取り組んでいく。	・アンケート結果より、自分を大切に、他の人も大切にすることが育っている子ども達であると考えられる。 ・不登校の解決や未然防止のため、先生方のご苦労はよくわかる。 ・「学校に来るのが楽しい」と言えない児童の対応は、引き続き取り組んでほしい。
		「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	・自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。	・花里元気アップ運動を推進する。 ・睡眠、栄養、運動、休養などのバランスのとれた健康的な生活習慣を身に付けさせる。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する。 ・食に対する指導を充実する。 ・感染症感染防止対策の徹底。	・週1回クラス全員で運動場に出て、体を動かす。 ・夜は10時までに寝て、朝は7時までに起きる児童が75%いる。 ・朝ごはんを食べる児童が90%以上いる。	B	・外遊びや元気アップ運動などの取り組みにより、体を動かす習慣は身につけている。 ・食に関する指導や、保健だよりなどで健康な生活に関する呼びかけを行ったが、「早寝・早起きを心がけている」が72%、「朝ごはんを毎日食べている」が84.7%と目標を少し下回った。	・健康な生活を送ることの大切さについて、児童だけでなく保護者にも呼びかけを行い、健康な生活に関する充実を図っていく。 ・健康な生活に関する手紙などの配布の際や風邪などの流行の季節の際には、教師が一声かけ、児童に意識づけしていく。	・保護者の協力もあり、多くの児童に基本的な生活習慣が身についている。朝ごはんを食べていない割合の児童は、家庭の協力が必要である。 ・寝不足やお腹がすいている状態では、友だち関係など学校生活に支障をきたすことが考えられる。朝ごはんを食べることは、とても大切である。
		教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	・自ら課題を見つけ、考え・行動できる児童を育てる。 ・目標に向かって努力し、意欲的に学び続ける態度を育成する。	・「キャリア・パスポート」を活用し、4月に1年の目標設定を記入させる。 ・半年ごとに児童が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題をつける。 ・子どもの成長を見取り、次の一歩を出せるようなコメントを教師や保護者が記入する。	・児童アンケートで「自分は、将来の夢や職業について考えている」と回答した割合が80%以上になる。また、教職員アンケートで「児童に夢をもつこと、仕事や働くことの大切さを教えている」と回答した割合が80%以上になる。	A	・児童アンケートの結果は76.7%、教職員アンケートの結果は88.8%だった。 ・キャリアパスポートに記入することで、これまでの自分とこれからの自分を意識し、自分を見つめ直すことができていた。また教師や保護者からのコメントを見て、見守ってくれている安心感を得られ、さらに一歩前進しようと努力する児童もいた。	・日頃から、自ら考え・行動できるように声かけや励ましを行う。また、目標に向かって努力することの素晴らしさや大切さを伝えていく。	・どの分野であっても、才能を開花させる人は、自分の意思を尊重してもらった子である。日頃から、声かけや励ましを行うことは大切である。
特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	・児童の実態把握に基づき、個別の支援計画などを作成し、保護者・教職員と連携して、適切な対応を行う。 ・それぞれの子ども、校内支援体制を確立する。	・特別支援学級保護者に対して、年2回以上の参観・懇談の実施。 ・教職員に対して、年1回以上の特別支援学級参観(授業公開)の実施。 ・通常学級に在籍する配慮を要する児童の特性や支援について、校内委員会や校内研修(年2回)で交流し、関連機関との積極的な連携を図る。	・かがやき参観・懇談を年2回以上実施する。 ・全教員が特別支援学級児童を理解するための特別支援学級参観を年1回以上実施する。 ・コンサルテーションの実施等、関連機関と積極的に連携する。	A	・特別支援学級保護者に対して年2回以上の参観・懇談を実施し、教職員に対して特別支援学級参観を実施することができた。 ・通常学級に在籍する配慮を要する児童の特性や支援について、校内委員会や校内研修(年2回)で交流し、共有することができた。また日頃から、教師間で情報共有をすることで、それぞれに合った支援方法を考え、取り組むことができた。	・支援を必要とする児童に対する理解を深め、一人ひとりに合ったきめ細かい支援を継続していく。 ・必要に応じて、関連機関との連携を深め、より多くの児童理解を図り、支援を行う。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、効果的な個別支援の実施に取り組む。	・研究授業の際に、支援が必要とされる児童に対して、机の配置や担任の目配りに加え、他の教員のさりげない寄り添いやアイコンタクトがあり、チームとして児童に関わっている様子がよくわかった。 ・登下校の見守りを通して、気になつていない児童が、日々自立していくなど児童の成長がみられた。 ・我々学校評議員も授業参観し、支援を必要とする児童や保護者に対して支援できることはないかを更にと考えていく。		
教職員の資質向上 ①研修等の充実	・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。	・全教員参加による校内授業研究会、事前研究、事後研究を実施する。	・全ての教員が年1回以上授業を公開し、研修する。 ・自主研修会「HOP」でICT活用に関する交流を行い、ICT活用力を高める。 ・全教員で情報研修会を行い、授業例を報告するなどして、ICT活用指導力の向上のために研鑽を積む。	A	・自主研修会やICT研修を行ったことで、日頃の指導で適切にICT機器を活用することができた。また、教員のICT活用指導力も向上してきた。	・全教員参加による校内授業研究会、事前研究、事後研究を継続して実施する。	・資質向上のため、今後も継続して取り組んでほしい。		

教育環境の整備・充実	<p>学校を支える組織体制の整備</p> <p>①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築</p>	<p>積極的に学校情報を発信する。</p>	<p>授業参観を実施する。</p> <p>学校だよりを月2回発行し、地域にも配布する。</p> <p>学校ホームページを月2回以上更新し、学校情報を積極的に発信する。</p>	<p>保護者アンケートで「学校の様子や目指しているものなどを分かりやすく伝えている」と回答した割合が80%以上、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した割合が75%以上になる。</p>	A	<p>新型コロナウイルスの影響を受けながらも授業参観を行い、学校だよりの発行、学校ホームページを積極的に更新するなどして、学校情報の発信に積極的に取り組んだ。</p> <p>「学校の様子や目指しているものが分かりやすい」95%、「学校は保護者の願いに応えている」89.8%と目標を達成している。</p>	<p>来年度も継続して、学校の様子を保護者や地域の人々に伝えていくようにする。また、保護者と共に、児童をよりよい方向に伸ばすように努力していく。</p>	<p>学校だよりやホームページ、正門の掲示板などで、児童や学校の情報が詳しく発信されたのはよかった。引き続きお願いしたい。</p> <p>アンケートの高い回答率は大変素晴らしい。先生方の日々の愛情ある子どもたちとの関係づくりの成果だと思ふ。</p>
	<p>安全・安心な教育環境の充実</p> <p>①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進</p>	<p>子どもたちの危機対応能力や災害の状況に応じた対応力を育てる。</p> <p>学習環境の管理・整備を徹底する。</p>	<p>登校指導(月1回)を行う。</p> <p>防災訓練(火災1回、地震1回)を実施する。</p> <p>防犯訓練(不審者)を実施する。</p> <p>学校で学んだ防災意識を家庭に返すよう促す。</p> <p>安全点検を行う。(月1回)</p> <p>感染防止対策として、環境消毒の徹底。</p>	<p>児童アンケートで「訓練や学習を通して、災害が起きた時にどうすればいいか考えている」と回答した割合が80%以上、「家族と災害時の対応の仕方について話あっている」と回答した割合が65%以上になる。</p> <p>保護者アンケートで「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。</p>	B	<p>新型コロナウイルス対策のため、例年通りの訓練ができないこともあったため、事前・事後指導を入念に行った。「災害が起きた時にどうすればいいか考えている」81.5%と目標を達成できたが、「災害時にはどうしたらいいか、家族で話し合っている」49.7%と目標を下回った。</p> <p>「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した保護者は93.7%と目標を達成した。</p>	<p>来年度も防災・防犯訓練の指導を充実させ、児童の防災・防犯意識を高めていき、家庭でも話し合ってもらえるよう引き続き呼びかけていく。</p> <p>安全点検の結果から、整備の必要な場合には早急に対応する。施設設備に関しては、PTAと連携しながら取り組んでいく。</p>	<p>児童は、学校で防災・防犯訓練の指導を受けているので、家庭でも共有し、話し合ってもらいたい。地域での防災訓練参加の呼びかけを出していく。</p> <p>放課後の学校の運動場開放に、児童達は喜んで自転車で向かっている。地域の私たちも十分見守り、注意もしていきたい。</p>

<p>学校関係者評価総括</p> <p>・コロナ禍ではあるが、できることを工夫して、学校・保護者・地域住民が、教育活動の実現のために協力し、取り組んだ成果が少しずつ実を結んでいる。</p> <p>・学力向上の取組など、教員の姿勢に意欲が見られる。今後も引き続き、取り組んでいただきたい。</p> <p>・授業参観や九九のお手伝いなどに参加している中で、児童の学習態度の良さが見られ、それが学力向上につながっていると考えられる。</p> <p>・不登校支援専門の方は大切な存在であり、増員や週10時間程度の勤務時間を増やすなどの対策を是非ともっていただきたい。</p>
<p>次年度に向けた重点的な改善点</p> <p>・コロナ禍で対話やつながりが減ったことが将来に影響しないように願い、一人も取り残さないように、学力や自尊感情の向上を目指す。</p> <p>・健康的な生活習慣を身につけさせるために、児童への啓発とともに、学校・家庭・地域が連携を密にして取り組んでいきたい。</p> <p>・CRT調査をもとに個々の学力の把握をし、各学年・学団で身につけたい力を明確にし、系統立てて進めていく。</p> <p>・ICT機器などを活用した授業作りを推進すると共に、児童が主体的に授業に取り組むことができるような研究を進めていく。</p>

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った